

「親になるための準備期プログラム」活用手引き

1 ⑥エピソード「結婚ねえ・・・」

趣旨

このエピソードでは、大学時代からの親友である直人と一郎との電話のやり取りを取り上げています。直人は大学卒業後に結婚し、2人の子どもをもうけています。一方、一郎はいまだに結婚を考えておらず、独身生活を謳歌しています。会話のなかで、直人は一郎に結婚を勧めます。しかし、一郎は結婚によって今の自由気ままな生活が犠牲となることを恐れ、結婚に対して消極的です。プログラムでは、一郎を結婚へと踏み切らせるための直人の言葉を考えてもらいます。

このエピソードのポイントは、青少年に“結婚することの意義についてあらためて考えてもらうこと”にあります。近年、若者の間で未婚者が増加しております。その背景には、結婚することによって行動や生き方が制限されたり、生活水準を落とさざるを得なくなったりすることに対する若者の抵抗感があります。このような若者の抵抗感は、心情的に理解できます。しかし、未婚者の増加は出生数の低下に直結するため、日本社会の根幹を揺るがしかねません。このような状況のなか、若者に結婚することの意義について考えてもらい、結婚に対して少しでも前向きになってもらうことは極めて重要であると言えるでしょう。

1の表6 プログラム活用の流れ (1-⑥エピソード「結婚ねえ・・・」)

時間	活動	留意点
約5分	1 グループ決め (1グループ3人)	○ファシリテーターがグループワークの内容と進め方を説明しましょう。 ○グループは、仲の良い人ばかりで構成されないよう配慮しましょう。
約5分	2 直人と一郎の会話を考えてみましょう。	
約10分	3 各人が考えた会話をグループ内で発表してみましょう。	○本人になりきって会話を読み上げてもらいましょう。
約10分	4 結婚することの意義についてグループ内で議論してもらいましょう。	○グループで話しあう際、特定の人ばかりが発言するのではなく、できる限り多くの方が発言できるようにファシリテーターの人は留意しましょう。 ○意見が同じような内容に偏ってしまうことが予想されます。ファシリテーターの人は、できる限り多様な意見が出されるよう参加者をうながしましょう。
約30分	5 議論の結果については、グループごとに発表してもらいましょう。	○発表者をあらかじめ決めておいてもらいましょう。

2 ⑦エピソード 私の夢はどうなるの?

趣旨

このエピソードでは、あるラジオ番組に寄せられたリスナーからの葉書を紹介します。リスナーは、就職活動の真っ最中ですが、付き合っている彼氏のことでも悩んでいます。彼氏はリスナーに対し、自分の職場の近くで就職することや子どもが生まれたら仕事を辞めることを望んでいます。しかし、リスナーには保育士になるという夢があり、その夢を実現しようとするのが彼の期待に沿うことができないため、悩み苦しんでいます。プログラムでは、ラジオ番組のパーソナリティになった気持ちで、リスナーの悩みへの返答を考えてもらいます。

このエピソードのポイントは、青少年に“より豊かな恋人関係や夫婦関係を築くためには、自分の気持ちを相手に一方的に押し付けるのではなく、相手の気持ちにも寄り添い、双方ができる限り納得する道筋を模索する必要があるということ”を理解してもらうことにあります。このことは一見当たり前のようですが、実際にはなかなか難しいようです。そのため、プログラムを通じて過去の自分や現在の自分を振り返ってもらい、望ましい恋人関係や夫婦関係の在り方について、あらためて考えてもらいたいと思います。

1の表7 プログラム活用の流れ(⑦エピソード 私の夢はどうなるの?)

時間	活動	留意点
約5分	1 グループ決め(1グループ3~5人)	○ファシリテーターがグループワークの内容と進め方を説明しましょう。 ○グループは、仲の良い人ばかりで構成されないよう配慮しましょう。
約5分	2 リスナーの悩みへの返答を考えてみましょう。	
約10分	3 各人が考えた返答をグループ内で発表してみましょう。	○本人になりきって返答を読み上げてもらいましょう。
約10分	4 相手を束縛しないためにはどういった点に気を付ける必要があるのか、ということについてグループ内で議論してもらいましょう。	○グループで話しあう際、特定の人ばかりが発言するのではなく、できる限り多くの人が発言できるようにファシリテーターの人は留意しましょう。 ○意見が同じような内容に偏ってしまうことが予想されます。ファシリテーターの人は、できる限り多様な意見が出されるよう参加者をうながしましょう。
約30分	5 議論の結果については、グループごとに発表してもらいましょう。	○発表者をあらかじめ決めておいてもらいましょう。